

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計		事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	シート番号	038-058
担当部署名	教育委員会事務 局	学校教育 部	生徒指導 課
		評価責任者(課長名)	中達

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	3	次代を担う子どもを健やかにはぐくみます	後期実施計画の位置付け
			施策	4	教育・生活環境の充実	有
	2	事業開始年度	平成 20 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	教育基本法			
	4	関連計画	堺市教育大綱、第2期未来をつくる教育プラン			
5	事業実施の経緯	学校園だけでは対応が困難な、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、子どもの置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うスクールソーシャルワーカーの役割が重要性を増している。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()					
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	市立学校園					
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	学校だけでは対応が困難な、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題の解決を図ることを目的とする。					
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	スクールソーシャルワーカーを活用し、下記の取組を行う。 ・課題を抱える子どもが置かれた環境への働きかけ ・関係機関等とのネットワークの構築、連携、調整 ・学校内におけるチーム体制の構築、支援 ・保護者、教職員等に対する支援、相談、情報提供 ・教職員等への研修活動 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()					
10	直接実施以外の主な支出先							

Ⅲ. 投入量

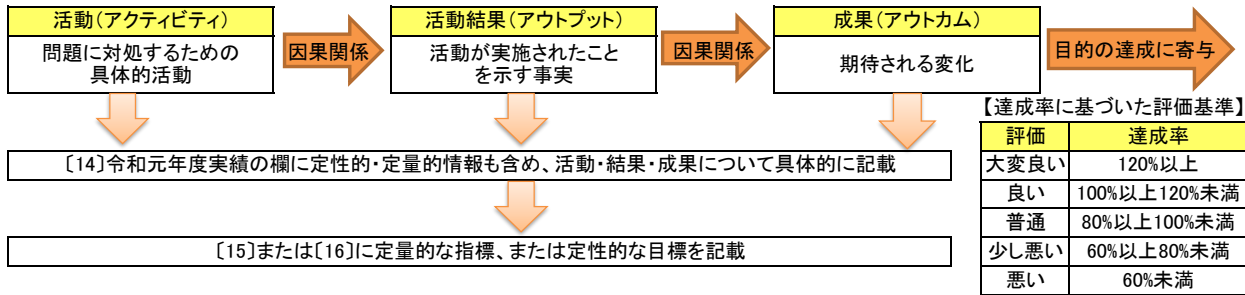
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費 (a)	千円	22,668	23,165	22,668	21,044	25,762	21,864	46,370	
主な事業費内訳	スクールソーシャルワーカー謝礼金	千円	22,092	22,748	22,092	20,621	25,200	21,515	40,320
	スクールソーシャルワーカースーパーバイザー謝礼金	千円	360	360	360	360	360	270	3,360
	その他	千円	216	57	216	63	202	79	2,690
		千円							
財源内訳	国・府支出金	千円	7,556	7,395	7,556	7,014	8,587	7,272	15,456
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他()	千円							
一般財源	千円	15,112	15,770	15,112	14,030	17,175	14,592	30,914	
12 人件費 (b)	千円	1,640	1,640	1,640	1,640	1,620	1,620	1,640	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	24,308	24,805	24,308	22,684	27,382	23,484	48,010	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	シート番号	038-058
-------	-------------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)》

ロジックモデルの考え方



事業の活動実績や成果

		令和元年度実績						
活動実績と成果	14	スクールソーシャルワーカー2名を「派遣型」として活用するとともに、7名を拠点校として7小学校に配置するほか、学校からの要請に応じて配置校以外の学校にも派遣。さらに週1回、区役所に派遣し、関係機関との連携を促進した。						
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		スクールソーシャルワーカー活用人数	人	目標値	8	8	9	18
				実績値	8	8	9	
				達成率	100%	100%	100%	
	評価			良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		配置人数					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		不登校生徒出現率	%	目標値	2.83	3.01	3.25	3.65
				実績値	2.76	2.86	3.08	
達成率				102%	105%	105%		
評価	良い			良い	良い			
算出方法・設定根拠など		「不登校生徒」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。)で、年間30日以上欠席した生徒。 全国平均値以下。(最新の情報を目標値として設定。令和2年度の目標値は平成30年度の全国平均値。) 令和元年度実績値は、10月頃公表予定。						

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	スクールソーシャルワーカー総年間勤務時間数	時間	6,054	5,520	5,754
	②	上記①にかかる年間経費	千円	24,359	22,229	23,110
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	4,024	4,027	4,016
	備考(算出についての説明等)					
		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①					
	②	上記①にかかる年間経費	千円			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位			
	備考(算出についての説明等)					

業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
19	支援の対象となる児童数が増加傾向にあるなか、中学校不登校生徒出現率が横ばいで推移するなど、学校園を取り巻く環境が多様化、複雑化を呈するなか、スクールソーシャルワーカーの活動が目標達成に寄与していると考え。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

